

## 自然石を活用した石組み式簡易魚道等の設置について (賀茂川葵橋上下流落差工)

### 1 これまでの取組み

鴨川においては、都心部への天然アユの遡上を目指し、学識経験者、農林漁業関係団体関係者等により構成される「京の川の恵みを活かす会」により、平成23年度から障壁となっている落差工に簡易魚道を設置する取組を開始。

順次、上流に向かって設置箇所を増やしてきた。

この間、龍門堰（伏見区下鳥羽）が撤去されるなどもあり、平成28年度においては、5月から8月までの間、三条落差工、丸太町落差工、荒神口落差工に簡易魚道を設置。

### 2 これまでの成果

平成28年度は、これまでのノウハウを踏まえて設置する簡易魚道を順次改良してきたことに加え、今井堰（伏見区竹田）における落差縮小、国土交通省淀川河川事務所による大

阪毛馬水門等の運用改善等の取組の効果もあって鴨川へのアユの遡上が多かったこともあり、取り組み開始以来初めて、出町柳まで遡上したことが確認された。

### 3 葵橋上下流落差工への石組み式簡易魚道の設置

さらに上流への遡上を可能にするため、平成29年度は、出町柳に到達したアユにとって次の障壁となる葵橋上下流の落差工に、石組み式の簡易魚道等の設置が計画されている。



## ■ 石組み式簡易魚道等の設置計画

- 1 設置主体 賀茂川漁業協同組合
- 2 設置予定時期 平成29年4月下旬
- 3 材質 40～50cmの丸石

### 4 設置箇所ごとの概要

#### (1) 葵橋上流側

石組み式の簡易魚道を設置

#### (2) 葵橋下流側

丸石を使用し、既設魚道の機能を増進



### 5 石組み式簡易魚道の特徴

- ・ 日本大学理工学部教授 安田陽一氏の助言により計画。
- ・ 自然石を使用するため、景観との調和が図れる。
- ・ 石の組み方を工夫することで、洪水にも耐えられる（安田教授により水槽実験を実施）。万一流失しても、材質が石であるため悪影響が少ない。

## ■ 設置予定箇所



上流側

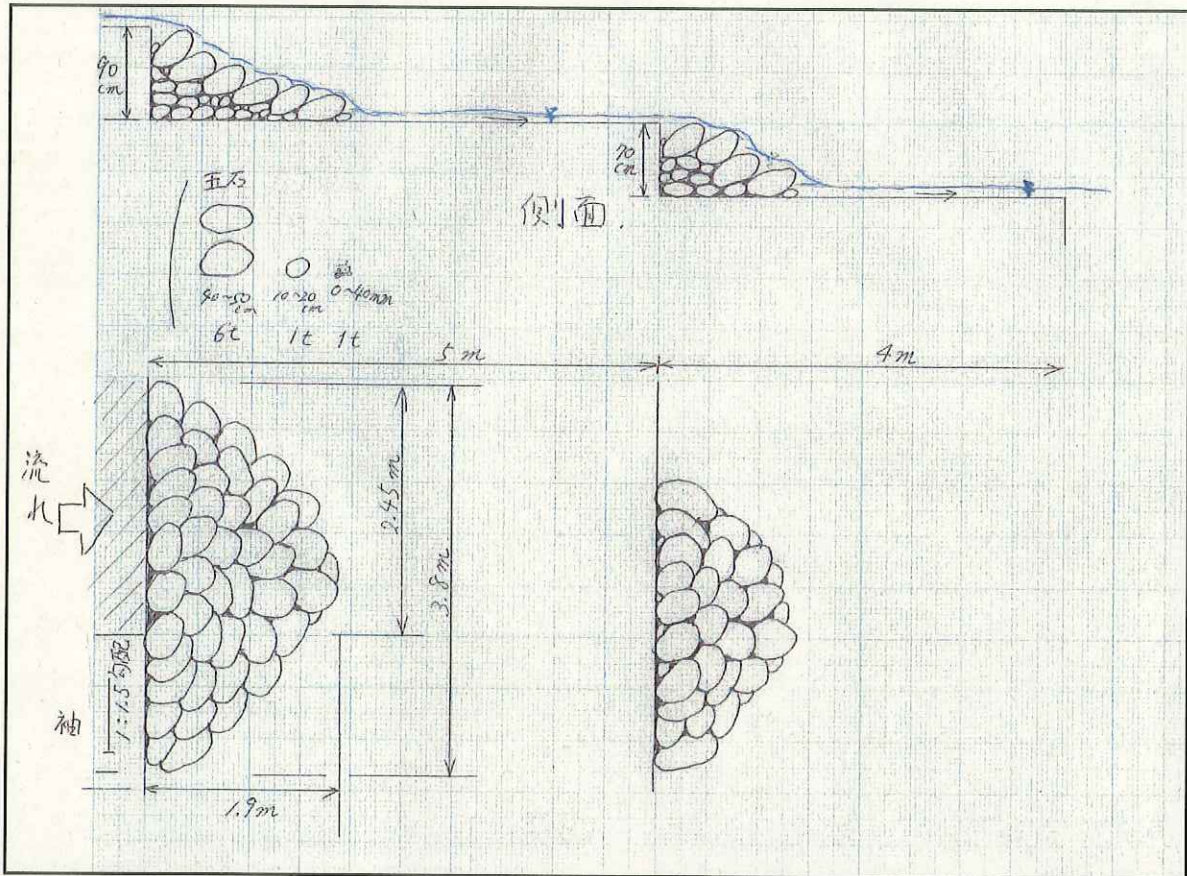


下流側

## ■ 水槽実験の様子（安田教授提供）



■ 葵橋上流側 石組み式簡易魚道 設置想定図 (安田教授提供)



■ 葵橋下流側 既設魚道改善 設置想定図 (安田教授提供)

